



TITLE:

雜報

AUTHOR(S):

CITATION:

雜報. 天界 1923, 3(27): 91-92

ISSUE DATE:

1923-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159838>

RIGHT:

雜報

變光星一九二二年三はZZPercseiの命名
 在来山本一清氏より中村君に達した通信によれば、中村氏発見の一九二二、三なる變光星はZZPercseiと命名された由(A・N・五二〇二)

因に其の要素は次の如し。

極大=1921年11月11日23時5分 G.M.T. +

13時50.9分×E

=ユリウス日2423605.962+0.5771×E

極大一極小=0.25日

光度變化の範圍=10.6-11.0

觀測部一九二二年度報

流星部

現在の觀測者は次の三氏である

三澤 勝衛 長野

中村 要 京都

山本孝二郎 岡山

觀測は少數であつた。全般として觀測者の少なかつた爲成績は今一息であつた。今年度には觀測部員には大いに勉勵せられん事を希望する。觀測時に認めた大流星は必らず報告して頂きたい。

變光星部 流星部に比して活躍した觀測者は次の五氏である。

山本 一清 京都 七時

神田 茂 東京 二時

磯原徳三郎 大阪 肉眼

山岡 克己 長野

中村 要 京都 四時

神田中村兩氏はA.A.V.S.O.會員となられた

觀測のプログラムとしては太極短週期星の極大極小を定める爲の觀測と長週期星の多くの觀測があつた。最新の材料による正確なアルゴリズムの極小の推算が樫原、中村兩氏により發表され有益に使用された。ケフェウスの觀測は多數に集つたので何れもまとめて發表したいと思ふ。小さい望遠鏡で興味ある且つ有力な觀測が出来るから一般會員の努力を望むのである。

太陽觀測

太陽部といふものは未だ無いが次の三氏が觀測を送られた。

三澤 勝衛 長野 三時十二箇月全部

中村 要 京都 四・五・六・十一・月

星島 四郎 鹿児島二月

三澤氏の連續觀測は特に貴重な者であつた。觀測は總て部報ブレンテンによりて發表された。ブレンテンの發行数は三十二回で年末には和文の天文急報が發行せられた。現在の會員數は五十名である。(中村要記)

「遊星とりどり」の批評

此書は山本先生の講演や新聞等に發表された文十一章から成つて居り遊星に關する事ばかりで氣もちの良い本である。
 一に太陽系の構造二に地球・三に蒼空の話

で以下には一つづつの遊星についてかなり丁寧な新しい研究が書かれ居る。水星と相對性原理や火星木星等の新しい記事は甚だ面白く讀んだ。遊星に關する新しい智識を得んとする人は是非讀むべき書物である。自分で慾を言へばもつと澤山書いてもらいたかつた又遊星の天象や一般的事以上に遊星其のものの見た所について書いて頂きたかつた。繪は珍しく又適當なものであつたが金星の繪は誤の様に思ふ金星の繪でなく水星で又缺け方に大きな誤がある此れ以外に誤を發見しなかつた N、K

天文太陽の親類めぐり 童話

(警醒社發行價一圓二十錢)

又水野幹事の著を迎へた。本書は太陽系に就いて誰にても善く了解し得る様且つ面白く讀み終らしめる様に記されてゐる。信吉と云ふ天文好きの家庭の一少年が夏休み三十一日間に父や兄や姉等から太陽系について日々教へられた事、即ち太陽の親類めぐりをした事について、其外ハルシエルの傳もあり、太陽系の未知星、太陽觀測所等についての記事もあり、最後に我國の天文臺めぐりの愉快な日記もある。凡てが問答體の日記となつてゐて、讀む中にすなふん廣い知識を興へられる。ほんとに讀者をして、僕も實際信吉さんと一緒に太陽の親類めぐりをしたと感ぜしめ、著者に謝せしめるものである。
 唯童話としては用語と文章に讀み難い所が

ある様である。少くとも中學二年位の智力はいると思ふ。改版の時にでもやばらけて頂き度いと思ふ。終に御約束の「星座めぐり」の出しの早からん事を待つ次第である。(編輯生)

ビケリング教授よりの手紙

中村 要

九月末小生の數箇のスケッチをジャマイカのビロリンク教授に送つたが其の返信が最近に到着した。其の内に二三遊星觀測に興味ある事があつたので書く事にする。スケッチは甚だ良く又目は甚だよくなくてはならぬが餘り多く見過ぎて居る。殊に無い所に運河を見て居る場合がある。此れは初心者に甚だ多い誤である。よほど確だと思つた外運河を書いてはならぬ。本當に見えて居る二つの運河を書かない方が無い運河を一本書くよりもよい。又小生のスケッチは中心にかたより過ぎて居る。南海が極から離れすぎて居る。東洋に於ける觀測は非常に重要である。他に殆んど觀測者は無い。シーニンクは標準のスケールを使つた方がよい。

編輯係 海老様

九月なつかしい京都を去つてから長い御無沙汰を容るさせ給へ。實は東都に來てから夜の觀測と、晝の計算とに魂が集中されて、敢えて禿筆を振ふの心に餘裕がなかつたからです。併し年も立ちかはり、此處に元氣を再び

振ひおこして、「恒星のスペクトルの分類法」なる拙稿を送るに至りました。聊か申譯も立つたかに思はれます。思へば京都の生活も一生の思ひ出の種となります。夜半すぎてから觀測を終り、寒ひ併かも晴れて星の降るやうな空を打ち眺めつゝ、吉田町から寓居の上賀茂さして、加茂川の堤防に自轉車を走らせた記憶は忘れたくないものです。東には比叡、西には愛宕の山々が暗く聳え、寶玉のやうな星が燦然と輝く天が下を獨り走る。思ひ出して悲愴の感に打たれます。なつかしい上賀茂の山麓の數年間の謠びすまひ、もう一生涯あそこには住めないでせうか。何一つ取り柄もなかつた賀茂の部落其れが又なく忘れがたい。今は東都にさすらひ同じ商賣はして居ますが又別な氣分を味つておます。小生は初めはスペクトルや、新星や、火星の研究に他事を忘れた時代もありましたが、今は月について天文學的に且つ文學的に研究することに小生の興味は凝りかたまつて居ります。春の夜には霞の面紗につゝまれて仄かに匂ひ、秋の夜には艶拭きされた辭かに冴え、あの月の光りがさうして忘れられませう。「月夜に憶れて」さ申す本を必ず書いて江湖に問ひたいと決心して居ります。

古川 生

岡山支部一月通信

一、十三日午後二時から、第二岡山中學校で

通俗講演會開催午後四時三十分閉會、引續き東山、吐月に於て晚餐會を催した。

1 天文と航海 元船長 岸本洗太郎氏

2 改正せられたる大正十二年曆について 支部幹事 水野 千里氏

二、二十日午後一時三十分から、第六高等學校で、岡山物理學會主催の連續講演會第一回が催され、左の講演があつた。第二回は二月三日、第三回は十七日、第四回は三月三日で終了の豫定である。

1 相對性理論 六高教授 雜賀修二郎氏

2 天體の形狀について 六高教授 宮原 節氏

三、水野支部幹事著「太陽の親類めぐり」は愈本月發行せられ、その姉妹篇「星座めぐり」は脱稿、目下上田助教檢閲中であるから、遠からず出版せられるであらう。そして星座は大正十二年曆にあるものが順次に記されてゐるのだ。

山口高等學校支部新設

山口高等學校化學教室の野垣寛之氏の御盡力に由り同校に本會の支部を新設し、同氏を支部幹事に御願した。

新城理學博士の御寄附

同博士は本會の事情を御同情下され昨年十二月及本年二月の兩回に金拾圓宛を寄附された。茲に記して感謝の意を表す。會計係